

NJ素流協 News

平成24年4月30日
第88号

平成24年4月30日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

ノースジャパン素材流通協同組合 における今後の事業展開について

東日本大震災とこれに伴って発生した東京電力・福島第一原子力発電所事故以降、満1年が経過しました。

この度の未曾有の大災害は、大地震・大津波という自然災害とこの災害に起因する原子力発電所の破壊に伴う放射能放出・発散事故とが重なった複合的・重層的なものであることから、その復旧・復興事業を進めるに当たっては、極めて複雑かつ困難な解決すべき課題が幾つもあるように思料されます。

しかしながら、いかなる困難が伴ってもわが国にとっては、今回の大災害に対する迅速なる復興事業は喫緊の課題であり、その遅滞は許されないと云えましよう。

時あたかも、世界的にはヨーロッパのユーロ圏における信用不安や中東地域の政情不安、わが国においては長期にわたる景気の停滞と急激な円高によって経済情勢の先行き不透明なこと等、わが国を含めた世界の政治的・経済的

状況は波乱含みであります。

このような厳しい状況下にあつてノースジャパン素材流通協同組合の平成24年度の事業が開始されたわけでありま

す。

平成24年度の事業計画については、5月22日に開催予定のNJ素流協の第9回通常総会において審議・決定される運びになっておりますので、その詳細については、次号のNJ素流協ニュースに掲載することにいたします。

▽NJ素流協の事業展望

そこで今号では、NJ素流協の平成24年度事業の開始に当たって、当年度を始期とするNJ素流協の中長期的な事業展望を述べてみようと考えます。

昨年度は、東日本大震災の影響を受けて素材の年間取扱量は計画量の7割程度の16万2千㎡と大きく落ち込みましたが、その間も販路の開拓等の素材供給の多様化等に営々と努力してきました。その成果が今後徐々に発現して

来るとの予測に立って平成24年度の取扱計画量を24万㎡にいたします。

次の平成25年度には計画量として27万㎡を見込み、東日本大震災以前の平成22年度実績の水準までもっていきたいと考えております。さらに2年後の平成26年度は取扱計画量を30万㎡に目標を引き上げたいと思っております。

その後は年間1万㎡程度を漸増させ、10年後の平成34年度計画量を40万㎡にすることを目標に置きます。

この中長期的目標を達成していくためには、NJ素流協の素材流通対象の拡大を図り、通称・A材からD材まで、すなわち、製材用素材から集成材用、合板用、バイオマス・エネルギー用原料まで拡げることが必須となります

が、今後とも一層の需要先の多様化に努めていく考えであります。

▽連続的森林作業への取組み

次に、森林から素材等の木質系バイオマス原材料を生産したならば、当然その跡地を森林に再生しなければなりません。が、これまでわが国においては、伐採事業と造林事業は別々の事業として実行されることが多く、それぞれの

担い手はともすれば異なるのが普通でした。そのために伐採作業と造林作業は時期的に間断されて「伐採→造林」を一体的に連続して行うということが少なかったであります。

しかしこれからは、この二つの作業を連続的に実施して森林作業（伐採と新植を含めた森林整備）を合理化・簡素化・効率化していくことが必要であります。したがって、素材生産事業体は、伐採作業と造林作業を連続作業として実行する担い手となることが強く求められます。そのことは森林作業のオールラウンド・プレーヤーとして、エキスパートとしての役割を強く要請されるということでもあります。

NJ素流協では、組合員の協力を得て平成22年度から今年度までの3カ年計画で「フォレスト再生モデル実証事業」を実施しておりますが、この事業の目的は《植栽未済地の解消と森林の適確な維持・増進を図ることを意図して、主伐から植栽・下刈までの一連作業の実行による低コスト作業を実証し、人工林の更新システムを構築する》こととあります。この「モデル実証事業」

の終了に引き続き、その実証結果を参考に平成25年度からは、組合員の理解と協力に基づき、伐採・造林作業の一体化を実際の林業経営のなかに定着・拡大させていくことを促進させていきたいと考えております。

▽情報事業体としての取組み

第三に、先に、「森林作業のオールラウンド・プレーヤーが強く求められている」と述べましたが、この要請に応えるためには、林業後継者の育成を含めた林業従事者の技術の向上と広い視野に立った林業経営に関する情報処理能力の涵養が重要となります。

これまでもNJ素流協は、教育及び情報提供に関する事業として、研修会、講習会、見学会を開催してまいりましたし、「素流協ニュース」や「立木公売情報」を定期的に発行し、ホームページによつても関係情報を随時発信してきました。

今後はそれらの場をより森林・林業の経営的視点に重点をおいた内容にしていきたいと考えております。

例えば、研修会の内容は、伐採作業においては大型の林業用機械を駆使し

た効率的な作業技術や路網作設技術の研究が必要であります。これに加え伐採作業と連動して実行される造林作業を一体化した作業仕組が重要になります。

造林作業における従来から行われてきた地拵え、新植、下刈等の作業内容を見直して、地拵え作業の伐採工程への組み入れ、ha当たりの植栽本数の是正、コンテナ苗木の積極的な導入、下刈作業の回数削減等による簡素化・省力化を図るとともに大型林業用機械を導入した伐採作業との最適化作業をどう仕組化するか、森林林業に関する情報をいかに迅速・適切に林業経営の中に活用するかといった研修、すなわち「伐採→造林」作業の仕組化等の研修や情報を駆使するためのパソコン研修等を積極的に実施してまいります。

講習会は、森林・林業に関する制度や助成策等の改正や社会的・経済的な情勢変化について組合員が適時・適切に周知できるように、必要に応じて講習会を開催して組合員の事業経営に資するようしていきます。

見学会については、今後ともNJ素

流協は組合員の生産する素材を含む木質系バイオマス原材料の供給先（販路）の多様化に努めてまいります。その場合、組合員が生産した木材が新しい供給先でどのように加工され製品となるのかを実際に見聞したり、供給した木材に関する相手側の意向を知ることが極めて大切なことであり、実効性のある見学会を随時開催してまいります。

最後に、NJ素流協という組織の事業目的・内容について述べます。NJ素流協は組合員によって構成されており、組合員の大半は、素材生産事業体であり、一部は組合員の生産した木材を運搬する運送業者であります。

このように組合員は、モノを生産したり、モノを運搬するといった実業者であります。ところが、NJ素流協という組織は、自らがモノを生産したり運搬をしません。NJ素流協自体は、《情報事業体》なのであります。

NJ素流協の定款の第1条に「目的」が掲げられておりますが、この定款第1条の文面をこの際置いておいて、「目的」を簡潔に言うと、《情報を活用し

て、組合員の生産する木材を計画的、安定的、効率的に流通させて、組合員の利益に資すること」であります。

N J素流協の事業内容は、組合員が生産した木材に関する情報、具体的には、樹種、長級・径級別数量、品質規格、組合員の販売についての希望、運搬方法等々についての情報を迅速かつ適確に把握して出荷手続きを執行し、必要に応じて運搬業者への輸送手配を行います。

一方、供給先の選定や木材の受入れ先との調整や納品確認、期間毎の決済事務等を実行します。すなわち、出荷から運搬、納品、決済までの一連の流れ(流通システム)を円滑に実行することでありませす。

また、組合員の生産能力が増大していることや林地残材の有効活用への希望が強いこと等から新たな販路の開拓等も重要な仕事であります。これまで述べてきた事業内容は、すべて情報活動をもとにして成り立っています。N J素流協が《情報事業体》である所以であります。

▽触媒的機能の発揮

さて、N J素流協は、今後中長期的にどのような組織を目指すかということとありますが、ひと口に言って《触媒的役割を果たす》ことを目指したいと考えております。

「触媒」とは、化学用語で《触媒自身は少しも変化せず、他の物質同士の化学変化作用の速度を速めたり遅らせたりする働きをする物質》を言います。

第3次補正予算 流通経費支援事業を実施

▽N J素流協の取組み

昨年11月に成立した平成23年度第3次補正予算では、各都道府県の森林整備加速化・林業再生基金事業として、林内路網の整備、木材加工施設の復旧整備ほかの事業メニューが実施される。

N J素流協では、この事業メニューのうち、当組合員が実施可能な①高性能林業機械等導入、②間伐材安定取引協定運搬、③被災地域にかかる原木運搬について、事業内

すなわち、N J素流協は、木材の供給者側の素材生産者や運送業者と需要者側の木材加工業者の間に立って、両者の事業経営に対して情報を駆使した流通機能を発揮してそれらの事業活動の速度を速めたり遅らせたりするだけでなく、両者に対して発展的变化を促すとともに、素流協自身も相手の変化に即応して変化をしていくことで全体

の最適化を図ることを目指していきたいと考えております。化学反応における触媒の働きよりも、もう少し広い意味での触媒的機能を果たしていきたいということとあります。

N J素流協は、組合員の皆様とともに森林・林業の担い手の一翼として着実に歩を進めてまいります。

て実施することとし、岩手県への申請等事務を進めてきた。加えて組合員に対しては、事業への具体的な取組み方法についての説明会を岩手県内5箇所で行った(平成24年4月9、12、20日)。

なお、この森林整備加速化・林業再生基金事業は県単位の事業であることから、青森県については、当組合の団体組合員ごとに取組むこととして指導した。

▽流通経費支援事業(被災地域にかかる原木運搬)

1. 事業内容

東日本大震災により従来からの納入工場が被災し、納入できなく

なった分の原木を他の工場へ振り替えて出荷する場合には、掛かり増しとなる輸送費が輸送距離に応じた助成されるものである。

2. NJ素流協による取りまとめ申請

昨年度の第1次補正予算による同様の事業では各組合員が個別に実施したが、今年度は組合員の負担を軽減するため、前述の通りNJ素流協が取りまとめて実施することとした。申請量は、組合員の震災前の出荷実績と今年度の出荷見通しを勘案した要望量をまとめ、県からの内示量を組合員個々に再配分することとした。事業の実施は4月下旬から一部開始したが、事務処理の関係上、5月出荷分より本格的に取り進むこととなった。

3. 事業の流れ

本事業の対象となる材の出荷に際しては、各組合員は当該原木の伐採届や立木売買契約書等の写しと、出荷元位置図をNJ素流協事務局に提出し、事務局が合法木材の確認と出荷元の確認をする。

運搬距離は、厳密には出荷山元から納入工場までの距離が基準となるが、事務処理上煩雑となり管理が難しいこと、また同じ市町村内で助成額に差が出るのが想定されるため、この事業における運搬距離は平成の大合併前の旧市町村単位とし、さらにその旧市町村における国・県道の一番手前の位置から工場までの距離を基準とする。

原木納品書(送状)については、NJ素流協を出荷者、組合員を生産・運搬者とし、丸太の出材場所は旧市町村名で記入する。

運搬量は毎月締められ、運搬経費が組合員へ支払われる。

NJ素流協では出荷場所の現地確認調査を行うとともに、県への報告のための自主検査も定期的に行う。出荷量や出荷先等の変更に伴う事業計画の変更については、必要に応じて県と協議し、変更計画の承認を受けることとなる。計画量の運搬終了とともに、県へ完了届を提出し、事業終了となる。

冗談欄

理想相手は高↓低↓手

大震災以降、女性の結婚願望が高まってきているという。

戦後復興期の結婚相手としての理想男性像は「家付き、カー付き、ババア抜き」と言われ、昭和年代後半のバブル期には「3高」が理想相手と言われた。「高学歴」「高収入」「高身長」である。

妻に対して丁寧で威圧的でないので気分よく暮らせ(低姿勢)、しかも家事や洗濯、身の回りのことを妻に頼らないので、気ままに出かけられ(低依存)、更に、リストラや事故などの少ない職業や手に職を持っているので生活に不安が無い(低リスク)というのである。

この三高、経済や社会の状況が先行き不安になってくると必ずしも理想では無くなってきた。高身長を夫を介護するには重労働になりかねないし、高収入者は不景気で賃金やボーナスがカットされたときにその落差感が大きく、更に、高学歴者は勉強ばかりしてきたのでひ弱で、予想外のことが起きたときに精神面の弱さが出るというのである。

妻に対して丁寧で威圧的でないので気分よく暮らせ(低姿勢)、しかも家事や洗濯、身の回りのことを妻に頼らないので、気ままに出かけられ(低依存)、更に、リストラや事故などの少ない職業や手に職を持っているので生活に不安が無い(低リスク)というのである。

十数年経ての理想像は「3高」から、「3低」に変わってきているといわれている。「低姿勢」「低依存」「低リスク」である。

そろそろ手をつながなきゃならない老妻に「俺と結婚したのは、家付き、カー付き、ババア抜き、高学歴、高収入、高身長のどれかね?」と聞いたところ「どれでもないわ。他に誰も居なかっただけよ。」だって。

今月の名木・巨木 1 (盛岡市)

各地の名木・巨木のうち、市町村指定の天然記念物となっている樹木等のなかから、興味深いものを取り上げてご紹介します。

盛岡市指定天然記念物 円光寺の夫婦カツラ

指定…1972年11月22日
所在…盛岡市南大通3丁目11-49

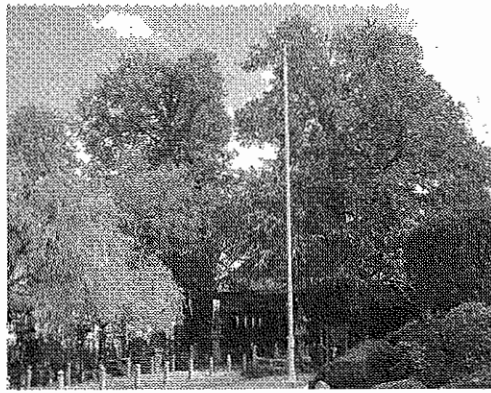


写真1 夫婦カツラ全景

カツラは「盛岡市の木」として親しまれており、盛岡市内では3本のシダレカツラが国の天然記念物に指定されている。
カツラは雌雄異株、つまり雌木

と雄木のある木である。

円光寺のカツラは「夫婦カツラ」との呼び名のとおり、本堂に向かって右に雌木、左に雄木が並んでいる珍しいものである。葉が開く前の4月頃に、

雌雄それぞれ

れの木に赤

紫色の雌花

雄花を咲か

せ、その姿

は円光寺の

山号「紫雲

山」を思い

起こさせる。

雌木は目

通り幹囲(地

上から1・

2m高さの

幹周り)5・7m、

樹高約22m、

雄木は目通り幹囲5・4m、樹高

約20mと妻のほうがやや大柄であ

る。樹齢は約300年と推定され

ている(幹囲、樹齢は1995年

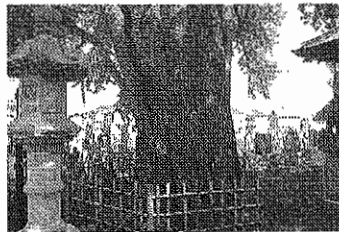


写真3 雄木

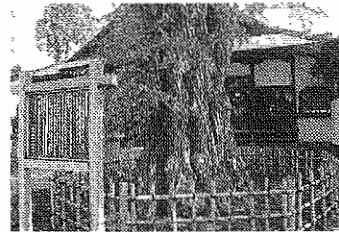


写真2 雌木

平成24年4月分の販売実績

- 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約1,420m³増加、カラマツが約150m³増加、アカマツが約260m³増加し、全体では約1,830m³増加している。昨年同月と比較すると、スギが約760m³増加、カラマツが約1,590m³増加、アカマツは約1,970m³増加し、全体では約4,290m³増加している。なお、今月はシステム販売の取扱いはなかった。
- その他(合板用以外)の出荷量は前月より約1,000m³減少、昨年同月より約360m³減少している。
- 今年度の年間計画量(案)に対する出荷量の割合(目標達成率)を8.3%とすると、今年度の全体出荷実績は、計画数量を1.5ポイント下回る結果となった。

(m³)

樹種	長級(m)	用途別		計 合計	今年度累計		
		合板用	その他 製材用等		合板用	樹種別 割合(%)	その他 製材用等
スギ	2.0	1,989			1,989		
	4.0	2,144			2,144		
	計	4,133	4,754	8,888	4,133	40.1	4,754
カラマツ	2.0	2,605			2,605		
	4.0	1,311			1,311		
	計	3,915	1,016	4,931	3,915	38.0	1,016
アカマツ	2.0	1,998			1,998		
	4.0	252			252		
	計	2,250	98	2,348	2,250	21.8	98
その他針							
広葉樹			60	60			60
合計		10,298	5,928	16,227	10,298	100.0	5,928
目標達成率(%)							6.8
計画量							240,000

3月設置の盛岡市教育委員会案内板による)。
カツラは公園などによく植栽される木であるが、山地では水分の多い肥沃な場所を好み、溪流沿いなどによく生育する。主幹が枯れても周りの複数の幹が伸び、長期

でも周りの複数の幹が伸び、長期

間生育するため全国各地で巨木が確認されている。

秋に黄葉すると、砂糖を煮詰めたような甘い香りを漂わせる。これはマルトールという成分によるもので、お菓子や香水にも使われている。